

# 令和5年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

令和6年2月21日  
足立区教育委員会  
学力定着推進課

文部科学省が令和5年4月18日（火）に実施した「令和5年度全国学力・学習状況調査」の調査結果について、以下のとおりお知らせします。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年（原則として全児童生徒）  
足立区実施校数：小学校67校、中学校35校（全校実施）

足立区調査人数		(単位：人)		
科目 対象学年	国語	算数・数学	英語※	児童生徒 質問紙調査
小学6年生	4,872	4,875	—	4,939
中学3年生	4,128	4,126	4,131	4,121

※ 英語は3年に1度の実施。前回調査は4年前の令和元年度。

## 3 調査事項

### (1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語（中学校のみ））

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 調査問題では、上記（ア）と（イ）を一体的に出題。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

### (2) 学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

#### 4 「教科に関する調査」の概要

##### (1) 小学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語	算数
足立区	67.9	63.8
東京都 (公立)	69	67
全国 (公立)	67.2	62.5

##### (2) 中学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語	数学	英語 「聞くこと」・ 「読むこと」・ 「書くこと」
足立区	69.3	48.0	47.1
東京都 (公立)	72	54	52
全国 (公立)	69.8	51.0	45.6

##### 中学校 英語「話すこと」【参考扱い】の平均正答率 (%)

	英語 「話すこと」
足立区	14.0
全国 (国公立)	12.4

#### 数値について

平成29年度以後、文部科学省による報道発表では、各地方自治体の平均正答率は整数値で公表されています。

足立区においては、より緻密に全国値と比較するため、上記の表では足立区の受検児童・生徒の平均正答数をもとに平均正答率を小数点1位(端数は四捨五入)まで計算して公表します。

なお、東京都(公立)の各教科の平均正答率は、小数点以下が公表されていないため、整数のまま参考として掲載しています。

#### 英語「話すこと」調査について

英語「話すこと」調査は、文部科学省が指定した一部の中学校(当日実施校:4月18日)とその他の中学校(期間内実施校:4月19日～5月26日)が分散して実施しました。

英語「話すこと」に関する調査の結果については、当日実施校の結果から推定される全国値のみが公表されており、都道府県別、指定都市別の公表は行われていません。

全国値は、当日実施校の結果から推定したものです。

<用語の解説>

平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示 ○ 国語、算数・数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を問題数で割った値の百分率（概数） ○ 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
全国（公立）	全国の公立学校
東京都（公立）	東京都の公立学校
全国平均値	全国（公立）における平均正答率
東京都平均値	東京都（公立）における平均正答率

## 5 教科ごとの調査結果及び正答状況から見た現状と課題

### 小学校6年生【国語】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)	
全体		14	67.9	69	67.2	
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	71.3	73.6	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	64.2	66.5	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	71.2	73.5	72.6
		B 書くこと	1	30.8	28.9	26.7
		C 読むこと	3	72.9	73.2	71.2
評価の観点	知識・技能	7	69.3	71.6	68.9	
	思考・判断・表現	7	66.2	67.0	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

#### 調査から見た課題

##### (1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を0.7ポイント上回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を0.4ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を0.7ポイントそれぞれ上回った。

##### (2) 領域「書くこと」について

- ア 他の領域と比較して、「書くこと」の領域が全国値の平均正答率を4.1ポイント上回っているものの、30.8%と低い。
- イ 『図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる』問題となっており、全国値(26.7%)でも他の領域と比較して低くなっている。

##### (3) 見えてきた課題

資料を基に問題点と解決方法について考え、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる力を育成することが必要である。

#### 授業改善のポイント

- ① 伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを、それぞれの図表やグラフの特徴、優れている点などについて捉えながら、児童が考えられるように指導する。
- ② 推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で学習活動を見直していく。

## 小学校6年生【算数】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		16	63.8	67	62.5
学習指導要領の 領域	A 数と計算	6	67.4	71.0	67.3
	B 図形	4	52.2	54.8	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	72.1	75.8	70.9
	D データの活用	3	63.4	67.3	65.5
評価の観点	知識・技能	9	67.6	71.5	67.2
	思考・判断・表現	7	58.3	61.2	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

### 調査から見た課題

#### (1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を1.3ポイント上回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を0.4ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を1.8ポイントそれぞれ上回った。

#### (2) 領域別の比較

- ア 他の領域と比較して、「図形」の領域が平均正答率52.2%と低い。
- イ 『正三角形の意味や性質について理解している』問題の平均正答率が27.7% (全国値は24.9%) と「図形」の領域の中で最も低い。

#### (3) 見えてきた課題

正三角形の意味や性質について理解することに課題があり、図形を構成する要素やそれらの位置関係を基に図形の構成の仕方を捉えることが必要である。

### 授業改善のポイント

- ① 目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に見通しを立てさせる。
- ② 図形の観察や構成などの活動を通して、図形の性質について考察し、示された図形の角の大きさを求めることができるように指導する。

## 中学校3年生【国語】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)	
全体		15	69.3	72	69.8	
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	68.2	69.6	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	63.3	66.2	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	72.0	73.1	74.7
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	82.5	84.4	82.2
		B 書くこと	2	62.5	66.8	63.2
		C 読むこと	4	62.1	67.2	63.7
評価の観点	知識・技能	7	68.4	70.1	69.4	
	思考・判断・表現	9	69.0	72.9	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

### 調査から見た課題

#### (1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を0.5ポイント下回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を1.0ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を0.7ポイントそれぞれ下回った。

#### (2) 領域「読むこと」について

- ア 他の領域と比較して、「読むこと」の領域が平均正答率62.1%と低く、全国値を1.6ポイント下回っている。
- イ 現代語で書かれた「竹取物語」を読み、『文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる』問題の正答率が47.8%と「読むこと」の中で最も低くなっており、全国値(50.0%)を2.2ポイント下回っている。

#### (3) 見えてきた課題

「読むこと」を通して古典の楽しみ方を理解し、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる力を育成することが必要である。

### 授業改善のポイント

- ① 古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見いだすことができるよう指導する。
- ② 教科書に掲載されている現代語訳だけでなく、生徒が楽しめるような現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動を計画する。
- ③ 古典の原文と比較したり関係付けたりする（ICT機器の活用も有効）ことで、古典の原文やその作品の世界に生徒の興味・関心が向かうような指導を充実させる。

## 中学校3年生【数学】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		15	48.0	54	51.0
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	60.5	66.0	63.0
	B 図形	3	32.2	39.2	33.2
	C 関数	4	48.7	54.3	51.2
	D データの活用	3	43.0	50.4	48.5
評価の観点	知識・技能	10	52.6	58.7	55.7
	思考・判断・表現	5	39.3	45.8	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

### 調査から見た課題

#### (1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を3.0ポイント下回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を3.1ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を2.3ポイントそれぞれ下回った。

#### (2) 領域別の比較

- ア 他の領域と比較して、「図形」の領域が平均正答率32.2%と低い。
- イ 『事象を数・量・図形等に着目して観察し、空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している』問題の平均正答率が29.9%（全国値は30.4%）と「図形」の中で最も低い。

#### (3) 見えてきた課題

空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることの理解に課題があり、直線や平面の位置関係を捉えることが必要である。

### 授業改善のポイント

- ① 空間における平面が一つに決まるときの条件について、観察や操作などの活動を通して、実感を伴わせながら理解を図る数学的活動に取り組ませる。
- ② 下敷きを指で支えることで、接している点の数から平面を考えるなど、身の回りにある事象から、空間において平面が一つに決まる条件を見だし、実感を伴って理解することができるよう指導する。

## 中学校3年生【英語】

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		17	47.1	52	45.6
学習指導要領の 領域	(1) 聞くこと	6	60.8	64.7	58.4
	(2) 読むこと	6	52.0	57.2	51.2
	(5) 書くこと	5	23.8	29.6	23.4
評価の観点	知識・技能	9	52.6	57.9	51.5
	思考・判断・表現	8	40.3	44.8	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			

「話すこと」【参考扱い】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			足立区	全国 (国公立)
全体		5	14.0	12.4
学習指導要領の 領域	(3) 話すこと [やり取り]	4	16.5	14.5
	(4) 話すこと [発表]	1	5.6	4.2
評価の観点	知識・技能	3	14.6	13.9
	思考・判断・表現	2	14.0	10.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合がありますため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

### 英語「話すこと」調査について

「話すこと」に関する調査結果については、当日実施校の結果から推定される全国値のみが公表されており、都道府県別、指定都市別の公表は行われていません。

## 中学校3年生【英語】

### 調査から見た課題

#### (1) 正答状況

##### ①「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

ア 全体では、区の平均正答率が全国値を1.5ポイント上回った。

イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を1.1ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を1.5ポイントそれぞれ上回った。

##### ②「話すこと」

ア 区の平均正答率が全国値を1.6ポイント上回った。

イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を0.7ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を3.9ポイントそれぞれ上回った。

#### (2) 領域「話すこと [発表]」について

ア 他の領域と比較して、「話すこと [発表]」の領域が平均正答率5.6%と低い。

イ 「思考力・判断力・表現力等」では、『社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す』問題の正答率が5.6%（全国値は4.2%）と低い。

#### (3) 見えてきた課題

社会的な話題に関して、聞いて理解したことについて、自分の考えや気持ちを整理し、その理由とともに話して伝える力を育成することが必要である。

### 授業改善のポイント

- ① 聞いて話す、読んで書くなど、複数の領域を統合した言語活動を充実させ、聞いたり読んだりしたことに対して自分の考えをもつことができるように継続的に指導する。
- ② 聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えや気持ちを伝え合う活動を継続的に行い、自分の考えや気持ちを整理し、その理由とともに話す機会の充実を図る。
- ③ 話すことを中心とした言語活動と合わせて、必要に応じて言語材料について確認したり、練習したりする時間を設けるなど、発話の正確さを高めるための活動を取り入れる。